

## 楽団員アンケート（意見の概要）

**問 1. あなたが考える「京都市交響楽団の市民的価値」**

文化芸術都市・京都の市民の誇り、情操教育や暮らしの豊かさへの貢献、文化芸術振興へのけん引 など

- ① 可能な限り多くの市民に最良の音楽を届けることで、心や身体で京響を受け取ってもらい、文化芸術の大切さを感じてもらう
- ② 「敷居は低く格式高く」あるべき
- ③ 地域に根付いた活動をコツコツ続けていくうちに、京響を応援したいという人たちがいてくれたのだということを実感。今後は、その価値は、是か非か問われ続けていくという厳しさも受け止めながら、今この瞬間を大事に
- ④ 未来のある子供達が喜怒哀楽をちゃんと表せるように安定した心作りと環境作りを音楽の力でサポート
- ⑤ 素晴らしい作品を優れた指揮者とともに作り上げ、市民に最高の芸術を提供し、市民の芸術性を高める
- ⑥ パリやニューヨークのように、芸術性溢れたまちにすることが我々の使命
- ⑦ 日本の文化のみならず、西洋の文化をも大切にすると世界に発信し、誇りとなる存在
- ⑧ 京都市という安定した母体があってこそ、優秀な楽員が各地から集まり、高い水準の音楽を提供し、市民に誇れる存在としてあり続けられる
- ⑨ 世界に誇れるオーケストラとして演奏のレベルアップを図るとともに、常に市民ひとりひとりに寄り添った活動も合わせて展開していくべき
- ⑩ 京響が音楽教育の分野で果たす役割は大きい
- ⑪ 社会の一員として市民に寄り添い、演奏を通して子供たちの教育や地域社会に積極的に参加していく役割がある
- ⑫ 「心の豊かさを育むこと」。市民から必要とされなくなる時、存在価値はなくなることを常に心にとどめて、日々の業務を遂行
- ⑬ 愛して応援してくれている市民の方々へ音楽を通して応えていく
- ⑭ グローバルに芸術的価値を限りなく高めてゆくこと
- ⑮ 創立理念そのものは大事にしていきたい
- ⑯ 質の高い演奏を常に求める楽団であることが本質であり、価値につながる
- ⑰ 市民に育てられて成長し、楽団もそれに見合った高水準の公演を行い、次の世代の文化的発展につなげていく、そういったサイクルを続けていくこと
- ⑱ 戦後間もない頃に西洋のオーケストラを創立
- ⑲ 心を豊かにし生活に活力を与え、文化都市として、より京都を市民が誇れると感じてくれる存在として、歴史的建造物等と同等の価値がある
- ⑳ 伝統的な日本文化が根付く京都で、日本初の市立のオーケストラを発足

## 問2. あなたが大切にしたい「京都市交響楽団の楽団員としての姿勢・想い」

常に向上心を持つ、京響の演奏への専念、外部活動による京響への貢献、誇りを持つ、身近な存在になる、京都の文化振興をけん引する、規律の順守 など

- ① 向上心を持って本務に取り組む姿勢が大切
- ② 責任と自覚、高い意識をもってオーケストラプレイヤーとして日々、技術の向上から音楽的なことまで努力すること
- ③ 見えないところで個々の努力が求められ、怠るとすぐに表に現れる過酷な仕事。多額の市税充当によって雇用の安定が継続している京響団員でいられるからこそ、自身のスキルアップに励み、体調を整え、結果を残すことができる。存在意義を提示し続けられるよう精進
- ④ その時その時のコンサートを大事に。音楽に対するワクワクを持ち続ける
- ⑤ クオリティを落とさず、向上させること。演奏面は当然ながら、普段の生活、行いについても京響楽団員として恥ずかしいことのないよう努めるべき
- ⑥ 他から受けた刺激を京響の演奏に還元。オケ単位でも個人単位でも外へ出ていかないといずれレベルは落ちる
- ⑦ 一つ一つの演奏会を大切にこなしていくことが最も重要
- ⑧ ポジティブであることが重要
- ⑨ 自覚を持ち、京響での仕事を一番に考え、京響がお客様に愛されるオーケストラとなるよう個々人が努力
- ⑩ 一人の音楽家として活動する面もある。個人の研鑽を積むことで各自がレベルアップすることは大事。京響に所属することを誇りに思える、京響愛をもって活動していける楽団員でありたい
- ⑪ 京響以外の演奏会に出演するなど、個人の技量を発揮できる場は大事。大学等での指導も含め、京響団員の存在価値を高めることにつながる。
- ⑫ 公務員に準ずる雇用形態であるがゆえに、音楽家としての活動に矛盾が生じるケースがある。音楽家としてのモチベーションを高く維持することが今後の楽団の発展に不可欠
- ⑬ 芸術家である誇りを持つこと。日常生活においても、基本的な常識やモラルを持ち、音楽以外の分野においても、様々な知識や興味関心を有すること。そこではじめて人間としての器の大きさと音楽表現の感性レベルの高さが養われる。市民の目線に立てる大人としての芸術家であり、演奏家の姿勢を大切にしたい
- ⑭ いつでもメンバーとの交流ができるオーケストラ団員でありたい
- ⑮ 京都市の文化活動のリーダーとなるべき、常にミュージシャンシップ（音楽家としてのプロ意識）を持ち、演奏活動を行っていくべき
- ⑯ 社会性と音楽性の両面を研く

**問3.「京都市交響楽団の目指すべき姿（どのような楽団になっていることが望ましいか、楽団がどのような状態・シーンになっていることが望ましいか）」。**

愛される存在に、京響への情熱、関係者が同じ方向性で努力すること、規律順守、身近な存在、良い労働環境 など

- ① 自分たちのまちのオーケストラとして、愛され、誇りに思ってもらえる存在に
- ② 堀川音楽高校、市立芸大、ジュニオケ、美術館など文化芸術資源と連携
- ③ 例えば、ロームシアター京都でのオペラ公演を続けている間、コンサートホールで交響楽の演奏会をメンバーを入れ替えつつ行うなど、常に活動していることをアピール
- ④ 多くの市民に京響の演奏を聴いてもらう機会を増やし、オーケストラ活動や存在に共感、社会的な意義を理解する人が広がって支持されること。京響メンバーとしての自覚を皆が持って、他の演奏会を優先することなく、誰もが第一に京響の仕事に情熱を持って務めること
- ⑤ 日々努力して更に高いクオリティを追求していかなければならない。そのプライドを持って自分達のやりたい事だけをやるのではなく、市民が求めている事に広く耳を傾け現実に見合った活動を展開していくべき
- ⑥ 国内外から新たな創造を目指す芸術家が集まって来る…京都はそんな都市を目指さなければいけない。京響は京都の顔としてそのシンボルとなるべき
- ⑦ スタッフ、プレーヤー、事務方、指揮者、全てが京響をより良いものにするために同じ方向で努力していける状況であること、携わる人全てがこの仕事に就けて幸せだと思えば最高
- ⑧ 京響楽団員・スタッフは組織に所属する人間であり、京都市・楽団のルールに従うのが大前提。その中で、音楽家として京都市民・クライアントに対してどこまでのことができるのかを考え、協議し、実行しようという姿勢
- ⑨ 国内外で評価を高めることも重要。外での評価がマスメディアや SNS を通じて拡散されることで、今まで興味を持って貰えなかった世代に認知される
- ⑩ 楽団員の個性が大切にされ、個人の雇用形態と将来に安定性が約束される
- ⑪ 成長し続け、世界に誇れるオーケストラであり、文化都市の顔となりたい
- ⑫ 生活に音楽は心の癒しであり支えであるという必要性、種を蒔き、市民がオーケストラ演奏を聞きに来るようになるというビジョンが出来上がれば良い
- ⑬ 様々な音楽を演奏し、広く親しまれることも大切だが、クラシック音楽を軸に
- ⑭ 様々なジャンルやアーティストとの共演や、他の楽団では取り上げられないような作品やアーティストをフューチャーするなどの画期的な企画を試み、幅広い聴衆の鑑賞意欲や関心を掻き立てるものを発信し続ける音楽団体
- ⑮ もっと身近に音楽を感じられるような、小さなコンサート(街角コンサートのような)。音楽を体験できたり、色んなことを学べるワークショップも出来たら良い
- ⑯ 環境や待遇の良さは保たなければ、優秀な奏者から順に、より良い場所へ移っていく。その環境に甘んじて団員として意識の低い者へは意識改革が必要

**問4. 京都市交響楽団が今後さらに市民的価値を高め、目指すべき姿を実現するために、具体的にどのような取組が必要だとお考えですか。**

具体的な事業の充実、教育機能の充実、更なる演奏力の向上、会員獲得、体制強化、意識改革 など

- ① 客足の入りやすい日程調査・時代の流行への対応が必要
- ② もっとメディアを活用出来たら良い
- ③ 参加型の公演、吹奏楽との合同演奏など人気の出る公演
- ④ 教育の分野と、ポップスやゲーム音楽との融合など、クラシック音楽の楽しさを提案し続け、新たなリスナーの発掘にも力を入れるべき
- ⑤ SNSでのPRをもっとすべき
- ⑥ 平日のお昼のコンサート
- ⑦ 市内小学生が必ず聴く小音研は、絶対に継続すべき。中音研も市内中学生全員に
- ⑧ オーケストラの活動や存在に共感して支持してくれる聴衆以外の市民を多く獲得する必要があることから、聴衆以外の市民にどのようなサービスが提供出来るのかという取り組みを考えていく時代に既に入っている
- ⑨ ディスカバリーの大人版(クラシック音楽入門編)のような演奏会を企画
- ⑩ 外国人観光客を呼び込めるよう、旅行会社にオプションで組み込んでもらう。京都ならではのおもてなし文化を(茶道や生け花のように)オーケストラで
- ⑪ ホール以外の場所で京響団員によるオーケストラ・アンサンブル等の演奏会の拡充。少しでも多くの市民の目と耳に届く機会を増やすことが大切
- ⑫ 行けない方々(病院、福祉施設など)に向けてや、野外でのコンサートなど
- ⑬ 京都市民だけに特化した公演なども良いのでは
- ⑭ 楽団員が自主的に行なっている小編成の室内楽公演は、人気も高く集客面でも成功している公演もある。個人の顔がお客様にも分かりやすい室内楽公演を楽団主導で定期的に行なっていければ、もっとファンの方々と身近になる
- ⑮ レセプションやお見送りへの積極的な参加、楽員の情報をより出すなど(京響のHPで楽員の名前をクリックすると写真とプロフィールが見られる等)
- ⑯ 「奨学生制度」も良い
- ⑰ 吹奏楽人口が多い昨今、京響で吹奏楽プログラムをやってみるのもあり
- ⑱ 公演料の見直し、スタッフの人員確保、広報の強化など
- ⑲ 演奏力のアップ、コンマス体制の見直し、人材の確保等
- ⑳ 音楽スタッフの増員、さらなる分業化、専門職としてのスキルアップ
- ㉑ 京響のスタープレイヤーをもっと外に出すべき。モラルを持った自由度を
- ㉒ 定期会員増。法人には、営業担当が楽員を伴って訪問演奏する取組はどうか
- ㉓ 企画段階から事務局と楽団員が協議出来る環境と、音楽主幹の早期確保
- ㉔ 自主公演におけるお客様アンケート実施
- ㉕ 組合組織の重要性を、楽団員全員が認識を。組織に所属しているという安心感から甘えを捨てること。経営意識を組織一丸とさせることが大切

**問5. その他京都市交響楽団の課題について、ご意見がありましたら自由にお書きください。**

- ① 現スタッフがとても頑張ってくれているが他オケと比べ人手不足。営業企画のスペシャリストとなるスタッフを入れて安定したスケジュールで自主演奏と依頼演奏のバランスを取れるようにしなければならない。
- ② 個人の出番の差が大きい。全体定数はそのままパート人数の見直しを
- ③ 練習場でもコンサートがしたい。昼間に1時間位のコンサートなど
- ④ 全てデータ解析を行い、今後につなげる必要がある
- ⑤ 前向きに、さすが京都と言ってもらえる状態で新しい門出を迎えたい。これを機に新しくチャレンジを重ねて京響がますます発展したのだと後で言えるようになりたい。自治体と文化団体と地域の連携による運営の一番の成功モデルとして、広く認識される近未来の京響を理想としてがんばりたい
- ⑥ 一人一人が、演奏家としての誇り以外にも、外部に向けた個人的活動におけるモラルと謙虚さを持たなければならない
- ⑦ お給料を歩合制にしてはどうか。オーケストラはあまりにも楽器によって出勤日数や勤務時間が違いすぎるし、実働時間で計算しないとムダが多い
- ⑧ 楽団員とスタッフ、事務局間の信頼関係を構築する事は、オーケストラの健全な運営にとって必要なこと。お互いに相手の立場を尊重して社会的な情勢の変化にアンテナを向け、価値観が固執する事なく、共通する課題の解決に向けて協力し合うことが大切
- ⑨ オーケストラを健全に運営していくために、何を大切に残して何をカットするべきかを考える時期。同じくらい重要な事は、コミュニケーションの立て直し。「オーケストラが何のために存在するのか」を改めて考え、コアなファン以外の、大多数を占める社会（京都市民）に向けて発信していく必要がある
- ⑩ 優秀なプレーヤーに京響に行きたい！と思ってもらえる待遇環境づくり
- ⑪ クラシックコンサートを聴く様になる年齢層を研究していくのはどうか。
- ⑫ 京響は素晴らしい人が揃っているし、世界に出ても恥ずかしくないレベル。オケとしても個々のプレーヤーとしてももっと外の世界へ出ていけたらいい
- ⑬ 「全員が加盟必須の楽員会」を作るべき。今の形のままで非効率だし、成長を妨げる原因になりうる。
- ⑭ 今までグレーにしてきた部分をクリアにするべき。7億円の税金が投入されているからこそ無駄を省くべき
- ⑮ 京都の音楽団体や教育機関との連携プロジェクトは毎年充実を図れている。今後もこうした教育現場への参画は積極的に行いファンの拡大を図りたい